

日本語教育演習 (その1)

2単位 3年(前期)

日本語教育演習 (その1)

大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。

【授業概要】 日本語教育の演習

【キーワード】 演習, 実習

【先行科目】 『日本語教授法Ⅰ』(1.0), 『日本語教授法Ⅱ』(1.0), 『日本語教育方法論Ⅰ』(1.0), 『日本語教育方法論Ⅱ』(1.0)

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が変更される場合があります。

【到達目標】 今まで勉強してきた理論や教授法などを復習しながら、どのように日本語の授業を組み立ててまた運営していくかを検討する。実際に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果的な授業やクラス運営について考える。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)
3. 教案の作成 (2)
4. 実習計画
5. 日本語教育実習 (1)
6. 日本語教育実習 (2)
7. 日本語教育実習 (3)
8. 日本語教育実習 (4)
9. 日本語教育実習 (5)
10. 日本語教育実習 (6)
11. 日本語教育実習 (7)
12. 日本語教育実習 (8)
13. 日本語教育実習 (9)
14. 日本語教育実習 (10)
15. 日本語教育実習 (11)
16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に適宜提示する。

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218920>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外の活動も多いため、適宜受講生と内容方法等を相談しながら進めます。

日本語教育演習 (その1)

2 units 3rd-year(1st semester)
Yasuko OISHI · PROFESSOR / INTERNATIONAL CENTER

Target 実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。

Outline 日本語教育の演習

Keyword 演習, 実習

Fundamental Lecture “日本語教授法 I”(1.0), “日本語教授法 II”(1.0), “日本語教育方法論 I”(1.0), “日本語教育方法論 II”(1.0)

Relational Lecture [関連科目]

Notice 学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が変更される場合があります。

Goal 今まで勉強してきた理論や教授法などを復習しながら、どのように日本語の授業を組み立てまた運営していくかを検討する。実際に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果的な授業やクラス運営について考える。

Schedule

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)
3. 教案の作成 (2)
4. 実習計画
5. 日本語教育実習 (1)
6. 日本語教育実習 (2)
7. 日本語教育実習 (3)
8. 日本語教育実習 (4)
9. 日本語教育実習 (5)
10. 日本語教育実習 (6)
11. 日本語教育実習 (7)
12. 日本語教育実習 (8)
13. 日本語教育実習 (9)
14. 日本語教育実習 (10)
15. 日本語教育実習 (11)
16. 振り返り

Evaluation Criteria 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

Re-evaluation 無

Textbook 授業中に適宜提示する。

Reference [参考資料]

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218920>

Contact

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (Office Hour: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

Note 授業時間外の活動も多いため、適宜受講生と内容方法等を相談しながら進めます。